第３回夢洲駅デザイン委員会　議事要旨

〇会議の日時及び場所

2022 年 3 月 24（木）　15:00～16:30

大阪市高速電気軌道株式会社 本社 1 階 大会議室

〇出席者の氏名（敬称略）

委員長	大阪府立大学 研究推進機構特別教授	橋爪　紳也
委員	京都市立芸術大学 教授	藤本　英子
委員	株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表取締役	藤本　壮介（欠席）
委員	（代理）大阪都市計画局 拠点開発室長	財部　祐介
委員	大阪府・大阪市ＩＲ推進局 理事	辰巳　康夫
委員	（オンラインにて途中参加）大阪港湾局長	田中　利光
	（代理）大阪港湾局 臨港鉄道整備担当課長	小林　靖仁
委員	大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長	河井　英明
委員	株式会社大阪港トランスポートシステム 代表取締役副社長	美濃出　宏人

〇議題

夢洲駅のデザイン（案）の提案

・夢洲駅のコンセプトと 5 つの実現手法、①折り紙天井、②鏡面・ゆらぎ、③灯り、④素材を生かす、⑤演出を確認。

・循環サイクルが長いものを空間デザイン、循環サイクルが短いものを演出デザインと位置づけ、変化しないものと変化するものを分けてデザインの詳細を進めていく。

・空間デザインでは、ホーム階、コンコース階、円形広場のパースとそれぞれの階の天井伏図、断面図を説明。

・演出デザインでは、万博前、万博中、万博後の 3 つのフェーズの中でサイネージを中心とした演出内容を説明。

・万博前後での可能性を取り入れたトイレ整備の方向性を説明。

〇議事の内容（委員の主な意見）

◆全体計画について

・日本らしい、大阪らしい駅が求められているのではないか。

・学研都市、東大阪、森ノ宮の新しいキャンパスから都心を経て大阪港湾エリア、夢洲といった新しい中央線のイメージが創出できればよい。

・万博後、ＩＲに来られたお客様もスムーズに導いていけるようなデザイン、今後のまちづくりとともに歩むデザインを期待している。

・3 つのフェーズ、時間軸を意識しているのが良い。

◆折り紙天井（アルミパネル）について

・アルミパネル天井がどのくらいサイネージの映像を反射するか確認したい。

・天井ユニットの中央部の折りが集まる部分の精度、目地の揃いが重要。大阪の技術ＰＲにもなる。

・改札前広場半円部分の照明と天井ユニットの集約の仕方がポイントである。象徴性がでる。

・マルセイユの港の鏡面天井を用いた広場や、ドバイ万博での鏡面をうまく使ったパビリオンを参考に人の動きを誘うようなあり方を追求してほしい。

◆色彩・照明について

・壁と床の黒やグレーの色彩は、ぜひ伝統色のような色の名前をつけてほしい。

・ホーム階について、側面は暗い色の方が折り紙天井が目立つのではないか。

・ホーム階の光のゲートは理解できるが、コンコース階サイネージ部分で光のゲートを続ける必要があるか疑問もある。床だけ、天井だけに照明を入れるという考え方もある。

・万博ＰＲの動画に、初めの導入部として光のゲートをくぐり抜けていく映像を提供すると、皆が万博に行く道や駅の様子をイメージしやすいのでないか。

・色を使う場合、全体のカラーリングを絞る方が良い。夕陽ならオレンジ系、中央線の緑を使うのであればオリジナルの精度の高いグリーンとした方が良い。

・ホーム階は黒を強調しており、ホームに入る際のトンネル演出もしやすいのではないかと期待できる。

◆トイレについて

・トイレは時代の流れを見据えながら引き続き検討してほしい。

・挑戦というコンセプトは良いが、男女の区別をなくすというのは現時点では難しいのではないかと思う。区分する、しないがどちらでも対応可能であるのは良い。

◆その他

・デザインが具体的になってきており、サイン計画の重要性を感じた。ここが夢洲駅であること、エスカレーターや階段の位置がどの場所で降りても分かることが必要。時刻表や駅構内図をいかにどうつけるか、現段階で想定しておく必要がある。

・サイネージと合わせて音をどのように使うかが重要なのではないか。できるかぎり音の演出を検討してほしい。

〇まとめ

・演出を含めた主なコンセプト、変わらない部分の基本デザインについては、決定としたい。

・サイネージのコンテンツなど変わる部分や、駅前施設との整合性は今後考えていきたい。

・今後、本デザインを実施設計に反映していくとともに、本デザインの公表の仕方等について関係者との調整を行い、公表する。

・第 3 回を最終回とし、本委員会を終了する。